

平成27年 2月16日

甲南高校を受検する皆さん、推薦入学者選抜で内定を受けた皆さんへ

## みんなでつくる「わっぜ甲南」

校長 海江田 修 誠

いよいよ高校入試の出願の時期になりました。

もし甲南高校に入学できれば、皆さんは甲南の69期生になります。皆さんはぜひ甲南生になりたいと思っています。そこで皆さんにまず甲南高校とはどういう学校なのか、おそらく受検生の皆さんがあまり知らない話をここでしておきたいと思っています。

二中通りの途中、甲南中学校のプール横に「三方限出身名士顕彰碑」という石碑が建てられています。「三方限」は高麗、上之園、上荒田をさす言葉で、この碑は三方限に生まれた48人の先人を顕彰して、昭和10年に建てられたものです。碑の前面に「負けるな。うそを言うな。弱い者をいじめるな。」の文字が書かれています。また、中央駅にある「若き薩摩の群像」は幕末に薩摩藩から英国に留学した17人を像にしたものですが、最年少13歳の長沢鼎は、「三方限出身名士顕彰碑」で顕彰される一人ですが、その生誕地は、甲南通りの学校の反対側、共研幼稚園のそばにあります。甲南の地はずっと以前から人材の宝庫だったわけです。甲南高校で学ぶ皆さんは、こういう土地、場所で勉強しているということをまず知っておいてほしいと思います。

本校の卒業生でもある歴史学者の原口泉先生は「三方限」で人材が輩出されたことをもとに「人材は群生する。」ということを言われています。なぜ人材は群生するのか一言で言うならば、それは近くにいる者同士が刺激しあい、「負けてたまるか」とがんばるからだと思います。

平成26年の最大のニュースは、二中出身の名城大学終身教授の赤崎勇先輩がノーベル物理学賞を受賞されたことでした。本校には赤崎先生直筆の色紙が二枚展示されています。その色紙には「見真」「吾か道、一以て之を貫く」と書かれています。その意味について先生は、「真を見抜くことが物事を進める上では非常に重要であり、若い皆さんが好きなきことを見つけ、これからの人生を信念を持って活躍してほしいと思い、この言葉を贈った。」と書かれています。

かつて、「三方限」の人材の中心には西郷や大久保がいました。その後、時代はずいぶんあとになって赤崎先生も二中時代「良い先生方、友人に恵まれた。」と書いておられます。また、赤崎先生に限らず、多くの先輩方が互いの切磋琢磨の結果として各界で活躍しておられます。さらに、現在の在校生の皆さんも部活動等様々な分野で活躍し「わっぜ甲南」を現出し、まさに「人材は群生する。」を証明してきたように思います。

皆さん、どうでしょうか。皆さんはこういう甲南高校の次の担い手になるのです。

甲南生の1日は、とても忙しいものです。限られた時間の中で凝縮した密度の濃い時間を送ります。勉強の内容も深まり、時間もかかります。部活動にもたくさんの方が入っています。本も読んでほしい。とにかくすることがいっぱいあります。その忙しさに負けないでください。世の中には時間の無駄をさせるものがたくさんあります。ゲームやスマホに時間を費やすことには何の価値もありません。青春の無駄遣いをしないことです。また、自分より成績のいい周りのみんなを見てショックを受けるかもしれない。宿題の多さに自分にはできないと思うかもしれない。でもみんな先輩方はそれを乗り越えてきたのです。くじけず強い気持ちで3年間を送ってほしい。本当にいい加減な気持ちでは続かないかもしれません。受検する前、入学する前の、今の段階でもう一度気持ちを確かめてください。そして覚悟をしてください。

甲南高校の教育目標は「地球規模でものを考え行動するリーダーを育成する」ことです。平成27年度からは、本校の総合的な学習の時間である「KIプロジェクト」をさらに拡充するとともに、「めざせ！21世紀薩摩スチューデント」として生徒を海外に派遣する取組も始まります。弱気で悩む暇があるなら、みんなで明るく「泣こよっかひっ飛べ」の精神でとにかくやってみる。それが甲南高校で学ぶことの良さだと思っています。

この1年間、「わっぜ甲南にしよう！」とスローガンのように言ってきました。そしてみんなが力をあわせてがんばれば「もっとわっぜ甲南」にできると思います。一緒にがんばりましょう！